

北海道支部ニュース 第51号

日本分析化学会 北海道支部 2015 年 8 月

巻頭言



日本分析化学会北海道支部長
宇都 正幸
(北見工業大学)

2014 年度に引き続き日本分析化学会北海道支部長を拝命しております北見工大の宇都です。

支部会員の皆様には分析化学会の活動を支えていただき、心よりお礼申し上げます。

北海道支部として、昨年度は節目の年でもあり、緑陰セミナーが第30回、氷雪セミナーが第50回という記念回を迎えておりました。緑陰セミナーは北海道大学大学院地球環境科学院の山田幸司先生に実行委員長の労をとっていただき、7月に釧路で開催されました。講師の先生方の気力溢れるご講演が学生を中心とした参加者により刺激を与えてくださいました。氷雪セミナーは北海道大学大学院工学研究院の渡慶次学先生に実行委員長を務めていただき、札幌市内のホテルライフォート札幌で開催されました。寺前分析化学会会長(当時)や参与の先生方、企業からもたくさんのご出席をいただきました。新しい支部活動への節目として貴重な時間を刻むことができたのではないかと思います。

また、2月の審議会において支部内規の見直しをしていただき、これまでの支部長任期1年を2年に変更いたしました。さらに、メール等による持ち回り審議を可能としました。北海道支部の意思決定はこれまで年2回の幹事会と年度末の審議会をもって行ってきました。しかし、北海道の広さを考えたとき、メールなどを用いた迅速な意思疎通と合意が必要との考えからです。これらの変更が支部活動の発展に寄与するものであることを願っております。

ます。

昨年度は支部長という立場で、これまで参加していなかった事業にも参加させていただきました。北海道地区化学教育研究協議会では、中学、高校の先生方の理科教育への取り組みについてうかがうことができ、創意と工夫に溢れる取り組みが大変参考になりました。

すでに2015年度の事業も順調に展開されつつあり、6月下旬には帯広・十勝川温泉で第31回の緑陰セミナーが開催されました。講師の先生方のご講演はもちろんのこと、ポスターセッションでは学生同士の真剣な討論が時間いっぱい熱心に行われていたのは素晴らしいことだと思います。

支部としての最大級の事業である第65年会が2016年9月に田中俊逸先生(北海道大学大学院地球環境科学研究院)を実行委員長として開催されることが決定いたしました。これからいよいよ実質的な準備に入ることになります。田中先生を中心に、大いに盛り上げていきましょう。

さて、巻頭言の話題にはふさわしくないかもしれませんが、分析化学会の財政状況は決して楽な状況ではありません。ここ数年、会長を先頭に様々な改革が試みられ、財政健全化へ向けて努力が積み重ねられてきました。今後もしばらくは支部活動等への影響が懸念されますが、そこは小さくとも団結力、チームワークの良さを発揮して分析化学の発展に寄与していける北海道支部でありたいと祈念しております。今後とも皆様のご協力をお願い申し上げます。

(うと・まさゆき)

これからの行事予定

第51回 氷雪セミナー

温泉につかりながら、北海道の未来に向けて皆で良いアイデアを考え出せたらと願っております。多くの皆様のご参加をお待ち申し上げます。

期日：2016年1月10日(日)13時30分～

1月11日(月)11時00分

会場：札幌北広島クラッセホテル(北広島市中ノ沢316-1) 電話:011-373-3800、交通手段:(1)札幌駅から快速エアポートで約16分 JR北広島駅からシャトルバスで約10分、(2)札幌から車で約40分(約34km)

<http://kitahiroshima.classe-hotel.com/>



なお、1月11日(月)のセミナー終了後にホテルからの送迎バス(11:30ホテル出発札幌

駅北口行)をご利用いただけます。

スケジュール：

第一日目 異なる専門分野からの北海道の現状・将来見通し紹介(講演、3件)

第二日目 総合ディスカッション(北海道の分析化学者による意見・提案等)

講演：北海道のエネルギー・環境に関わる現状・将来・問題等について3名の専門家の話題提供

1. 北海道のバイオマスプラントの現状と将来：
松田従三氏(北海道大学名誉教授)
2. 災害としての雪、資源としての雪：
石井吉之氏(北海道大学低温科学研究所)
3. 天然ガスの普及拡大とスマートエネルギー社会の実現に向けて：
伊藤智徳氏(北海道ガス株式会社)

懇親会：講演会終了後クラッセホテル内で開催

参加費：約1万3千円(参加人数により変更)

申込方法：氏名・勤務先・所属・連絡先を明記の上、E-mail または郵送にてお申し込みください。

申込先：北海道大学大学院工学研究科院

量子理工学部門 藤吉 亮子

電話：011-706-6674

e-mail：fuji@eng.hokudai.ac.jp

(北海道大学大学院工学研究院 藤吉 亮子)

これまでの終了行事報告

第50回 氷雪セミナー

本年度の氷雪セミナーは、50回の節目として、例年とは異なる形式で、本年1月10日(土)にホテルライフオー・札幌で開催されました。寺前紀夫先生(日本分析化学会会長・東北大学名誉教授)と板橋豊先

生(北海道大学大学院水産科学研究院特任教授)による2件の学術講演と、氷雪セミナー50年を振り返って～北海道支部回顧と題して、宇都正幸先生(日本分析化学会北海道支部支部長・北見工業大学マテリアル工学科)と田中俊逸先生(北海道大学大学院地球環境科学研究院)にご講演いただきました。



寺前先生

◆学術講演 1

規制反応場と分析化学

寺前 紀夫 先生

◆氷雪セミナー50 年を振り返って

氷雪セミナー50 回の歩み

宇都 正幸 先生

SUM(16,50) (分析+環境)化学・氷雪セミナー

田中 俊逸 先生

◆学術講演 2

海藻の不思議ー細胞膜質とアラキドン酸カスケードー

板橋 豊 先生

本年のセミナーには、47 名(大学等 27 名、企業 20 名)の参加があり、4 人の先生方からの興味深いご講演を拝聴させていただきました。講演終了後に、同ホテルの最上階のスカイホール サラにて講師の先生方を含め 44 名の参加のもと懇親会が開催されました。懇親会では寺前先生、那須先生、長谷部先生、片岡先生からご挨拶をいただいた後、歴代の氷雪セミナー実行委員長から当時のお話をリレートーク形式でご披露いただきました。50 年の氷雪セミナーの思い出話に花を咲かせつつ、大変盛況な会となりました。その後に場所を札幌プリンスホテル

スカイラウンジ トップ オブ プリンス に移して、二次会が開催されました(参加者:19 人)。

ご講演をお引き受けいただいた講師の先生方とご参加頂いた方々に、この場をお借りして心より感謝申し上げます。また、セミナー開催にご協力いただきました先生方と企業の方に感謝申し上げます。

今回の氷雪セミナーは藤吉亮子先生(北海道大学大学院工学研究院)のお世話で開催されることになっています。

(北海道大学大学院工学研究院 渡慶次 学)



第 50 回氷雪セミナー 集合写真

化学系学協会北海道支部 2015 年冬季研究発表会

化学系学協会北海道支部 2015 年冬季研究発表会(共催 : 日本分析化学会・日本化学会・触媒

学会・電気化学会・腐食防食学会・表面技術協会・石油学会の各北海道支部)が、2015 年 1 月 27

日(火)・28 日(水)の両日、北海道大学フロンティア応用科学研究棟で開催されました。201 件の一般講演(口頭発表 109 件およびポスター発表 92 件)と1件の特別講演が行われ、活発な質疑応答や議論がありました。特別講演には、京都大学大学院工学研究科の北川 進先生をお招きし、「ナノ空間が拓く新しい化学」と題してご講演いただきました。また例年通り、学生の講演に対して優秀講演賞が選定され、各所属校で受賞者へ表彰状を授与しました(口頭発表 9 件, ポスター発表 5 件)。参加登録者数は 474 名(一般 128 名、学生 346 名)でした。1 月 27 日(火)の 18 時から、北海道大学ファカルティハウス「エンレイソウ」レストランエルムにて懇親会が開催されました。北川先生を含め 37 名の参加のもと、盛況な会となりました。

2014 年冬季研発表会から、経費削減と実行委員の負担軽減のため要旨集の電子化と参加申込の web 登録(受付での用紙記入による当日登録の廃止)を実施し、受付ではプログラム集を冊子体として配付しました。実施にあたっては、方式変更2

(2015 年冬季研実行委員長、北海道教育大学札幌校 蠣崎 悌司)

年目でしたが、問い合わせも多く、当日の受付においても多少の混乱が生じました。講演者・参加者の皆さまにご不便とご迷惑をお掛けしましたこと、実行委員長としてこの場を借りてお詫び申し上げます。要旨集電子化と web 登録そのものについては、概ね評価をいただいております。来年以降の冬季研でも引き続き行われるかと思えます。今後とも冬季研の運営にご理解とご協力いただければ幸いです。

また、1 月 28 日(水)16:45 からフロンティア応用科学研究棟1F セミナー室にて、北海道分析化学賞(北海道立衛生研究所 西村一彦君、講演演題:「蛍光誘導体化試薬を用いる脂肪酸関連物質の高感度分析法の開発に関する研究」)、同奨励賞(海道薬科大学薬学科 三原義広君)、及び同功労賞(北海道大学大学院水産科学研究院 板橋 豊君、同大学院地球環境科学研究院 中村 博君、北海道和光純薬株式会社 横沢龍朗君)授賞式および講演が行われました。



授賞者記念撮影(左から・敬称略)

横沢龍朗
板橋豊
宇都支部長
中村博
西村一彦
三原義広



会場風景

受賞講演風景

第 31 回分析化学緑陰セミナー

毎年恒例となっている分析化学会北海道支部主催の分析化学緑陰セミナー。今年は、6月27日(土)～28日(日)にわたり、講演者を含めて52名の参加のもと、十勝川温泉国際ホテル筒井にて盛大に開催されました。今年のセミナーでは、分析化学分野から2名と他分野から2名の先生方にご講演頂き、まず分析化学分野として、我妻和明先生(東北大学金属材料研究所教授)から「分光分析用放電プラズマの特性評価」と、斎藤徹先生(北見工業大学バイオ環境化学科教授)から「分析化学者が創る高効率・低環境負荷医療排水処

理技術」について、さらに他分野として、筒木潔先生(帯広畜産大学特任教授)から「土壌有機物—その特性と農業環境中における役割—」と、浪越毅先生(北見工業大学マテリアル工学科助教)から「高分子の精密合成とその分析」についてお話を頂きました。また若手研究者および学生による16件のポスターが集まり、1時間の発表時間を超過する非常に活発な議論が繰り広げられました。

一泊二日のセミナーでありましたが、夕食会や深夜に及んだ懇親会にて、若手の交流も大いに広がり、学生たちも多く刺激を受けたものと思います。尚、来年度は、三原義広先生(北海道薬科大学)が幹事となり、開催される予定です。

(北見工業大学機器分析センター 大津 直史)



2015 年 夏季研究発表会

日本化学会北海道支部主催の2015年夏季研究発表会が、7月18日(土)、北海道教育大学函館校にて開催されました(共催:日本分析化学会北海道支部ほか7学協会)。

当日の天候は台風の影響もあり曇りでしたが、当日登録を含め230名を超える参加者がありました。一般講演は例年とほぼ同じ130件でしたが、7会場で活発な討論が交わされていました。

特別講演は、酒井隆一先生(北海道大学大学院水産科学研究院教授)＝写真左＝による「海洋生物の水溶性生理活性物質の研究」と、黒田一

幸日本化学会副会長(早稲田大学先進理工学部教授)＝写真左＝による「日本化学会のさらなる発展とCSJジャーナルの役割～研究者の立場から～」の2件でした。酒井先生は研究の御一端を、黒田副会長はCSJジャーナルのさらなる向上について話されました。プログラムの最後で、多くの方が聴講され大変盛況でした。

研究発表会終了後には明治12年創業の老舗洋食レストラン「五嶋軒」に会場を移し、約60名が



参加して懇談会が行われました。黒田副会長との記念撮影をされるなど、和やかに親睦が深められたようです。

特別講演の時間が少し足りないため、質問時間が取れなかったことなど、次の室蘭開催に向けて

の課題もありましたが、盛況のうちに終了しました。

来年度の夏季研究発表会は室蘭工業大学(室蘭)で行われます。

(北大大学院水産科学研究院 久万 健志)

2015 CALENDAR

開 催 日	事 業 名	開 催 地	担当幹事
-------	-------	-------	------

【2015 年】

4 月下旬	第 1 回幹事会	札幌	支部長
6 月 27-28 日 (土-日)	第 31 回分析化学緑陰セミナー	河東郡 音更町	大津直史
7 月 18 日(土)	2015 年夏季研究発表会	函館	久万健志
7 月 24-25 日 (金-土)	若手交流事業 (九州支部若手の会夏季セミナーへの学生派遣)	熊本県 上天草市	大津直史
7 月 27 日(月)	2015 年度公開セミナー	北見	齋藤 徹
8 月中旬	支部ニュース第 51 号	—	堺井亮介 久保溪女
8 月下旬	2015 年度役員候補者選考委員選挙	—	支部長
9 月上旬	2016 年度役員候補者選考委員会	札幌	支部長
10 月予定	第 2 回幹事会	札幌	支部長
11 月予定	北海道地区化学教育研究協議会	札幌	山田幸司
11 月上旬	2016 年度学会賞等受賞候補者推薦及び 2015 年度北海道分析化学各賞受賞者選考委員会	札幌	支部長
12 月中旬	支部ニュース第 52 号	—	堺井亮介 久保溪女

【2016 年】

1 月 10-11 日 (日-月祝)	第 51 回冰雪セミナー	北広島	藤吉亮子
1 月下旬	化学系学協会北海道支部 2016 年冬季研究発表会	札幌	蠣崎悌司
1 月下旬	2015 年度北海道分析化学各賞授賞式	札幌	支部長
2 月下旬	審議会(第 3 回幹事会)	札幌	支部長

2015年度 支部役員

支部長	宇都 正幸	北見工業大学
副支部長	久万 健志 坂入 正敏	北海道大学 北海道大学
庶務幹事	南 尚嗣 村井 毅	北見工業大学 北海道医療大学
会計幹事	谷 博文 吉村 昭毅	北海道大学 北海道医療大学
監査	黒澤 隆夫 森田 みゆき	北海道医療大学 北海道教育大学
他	参与 24 名 幹事 44 名	
事務局	〒090-8507 北見市公園町 165 北見工業大学マテリアル工学科内 公益社団法人日本分析化学会北海道支部 支部長 宇都 正幸 TEL :0157-26-9454 E-mail : jsac-hb@w9.dion.ne.jp 事務局秘書 氏間 多伊子	

2014年度 会計報告の概要

支 出		収 入	
臨時雇賃金	240,000	支部費	853,400
会議費	53,076	印税収入	125,877
旅費交通費	490,850	受取利息	382
通信運搬費	42,313		
消耗品費	45,318		
印刷製本費	27,046		
支払助成金	280,000		
内部支払助成金	459,439		
委託費	53,596		
表彰費	82,450		
雑費	3,996		
支出合計(B)	1,778,084	収入合計(A)	979,659
		当期収支差額(A-B)	△798,425



支部会員の欄

この欄では分析化学会北海道支部の転入や転出、新入会など会員に関する情報をお伝えします。次の方々の入会が認められた(「ぶんせき」誌 2015 年 1 月号～6 月号のお知らせ欄掲載分)ほか、転入及び退会の情報をお寄せいただきました。会員に関する情報をお持ちの方は、支部ニュース編集委員までお知らせください。

新入会のみなさん

小松 恵美子 (北海道教育大学旭川校)

松田 弘喜 (北見工業大学)

工藤 祥久 (北見工業大学)

佐々木 浩祐 (北見工業大学大学院)

牛島 健介 (北海道大学大学院工学研究院)

編集後記



支部ニュース第 51 号をお届けいたします。この度、ご多忙の中、ご執筆頂きました宇都支部長をはじめ執筆者の皆様には、この場を借りまして厚くお礼申し上げます。

私は日本分析化学会以外にもいくつかの学協会に所属しておりますが、支部単位でニュースなどを発行しているところは他にありません。しかも、年間 2 回のペースで、今回 51 号目となります。これまでの多くの会員の皆様のご尽力に敬意を表さざるを得ません。そして願わくは、支部行事と共にこの支部ニュースも一層発展しながら続いていって欲しいと思います。

次号も支部の活動を広く皆様に知って頂けるように努力したいと存じますので、今後とも、お力添えのほど何卒よろしくお願い申し上げます。

(編集委員 : 堺井 亮介、久保 溪女)

北海道支部ニュース第51号
日本分析化学会 北海道支部

◆ 事務局

〒090-8507 北見市公園町 165

北見工業大学マテリアル工学科内

公益社団法人日本分析化学会北海道支部

支部長 宇都 正幸

TEL : 0157-26-9454 / E-mail : jsac-hb@w9.dion.ne.jp

URL : <http://www.jsac.or.jp/~hokkaido/index.html>

◆ 編集・発行

公益社団法人日本分析化学会北海道支部

◆ 発行日 2015 年 8 月 15 日